

学校名	伊達市立伊達小学校	校長名	福原 太一郎		
住 所	伊達市館ノ内20	児童生徒数	467	学級数	20
T E L	024-583-3028	ホームページアドレス	school@date-e.fks.ed.jp		

習熟度別学習を通して、 一人一人に確かな学力をつけるための授業づくり

1 少人数指導の計画等

本学年の児童は、学力テストの結果をみると全国平均を上回っているが、さらなる学力向上のためには、基礎基本の定着と考えを簡潔に書く力の向上が課題である。そこで、書く力の継続指導をベースに、グループ学習やペア学習、体験的な学習を多く取り入れることで、自分の考えをしっかりと表現したり、活用したりできるよう国語科の授業を通して指導していく。算数科においては、毎週火曜日の朝、1時間目の前に「算数タイム」を実施し、計算力など基礎基本の徹底を行っている。また、習熟度別学習の形態や教頭によるTT指導を取り入れたきめ細かな指導を行い、さらにフォローアップシートやアシストシートの継続的な活用を図ったり、家庭との連携により家庭学習の習慣化に取り組んだりすることで少人数教育のよさを生かしながら、学力向上を目指す。

2 実践の概要

算数科において、一人一人の児童に目を向けると、指を使って計算し課題解決に時間がかかる児童、何度も練習しないと技能が身に付かない児童がおり、遅れがちな児童への支援を中心に上位児を伸ばす支援についても手立てを講ずる状況にある。

今回「ひっ算のしかたを考えよう」の単元において、2桁以上にわたって繰り上がりや繰り下がりが連続する計算問題で誤答が多く見られたことから、習熟度別学習を取り入れた授業を単元のまとめの段階で実施する計画を立てた。習熟度別のクラス分けにあたっては、学年の3人の担任の先生方が話し合い、自己診断テストの結果から、「ペンギンコース」（計算の基本を身に付ける）「アザラシコース」（さらに計算力を高め習熟を図る）「ラッココース」（発展問題を解き、数学的な考え方を伸ばす）の3コースを準備し、分担を決めた。3学級合同授業において、教頭は全体的に見て、児童の学習状況を見取り、つまずきを把握したり、見取ったよさをそれぞれの担任に伝えたりしながら、きめ細かな支援を行った。

- (1) 「ペンギンコース」・・・教科書の問題を中心に取り組み、繰り下がりの計算の仕方を理解できるようにする。



3位数－2位数（繰り下がりあり）の筆算でつまずく児童を分析したところ、下記のような傾向が見られた。

- 一の位で、＜減数－被減数＞の計算をしている。
- 位ごとの繰り下がりの計算でつまずいている。

指導にあたっては、まず数カードの操作と筆算の仕方を黒板でもう一度関連付けて考えさせた。さらに、計算の手順を文章に表してマニュアル化し、それを手がかりに計算を進めさせた。

繰り下がりでつまずいていた児童も、数カードと筆算の仕方を再度関連付けて視覚化したり、計算の手順を文章でマニュアル化したりすることで繰り下がりの意味がわかり、つまずきが減り、達成感があつたようである。

- (2) 「アザラシコース」・・・ 基本的な計算についてはおおむね理解しているが、さらに速く正確に計算できるようにする。



習熟コースの児童であっても、2桁繰り下がりが連続する計算になるとつまづく児童が多かった。誤答例を提示し、どこが間違っているのか、どうしたら正しく計算できるのかを、ペア学習や全体場で考える話合いの場を設定することで問題点や改善点を明らかにしていった。その上で、間違えたところを再度挑戦させることで習熟を図った。

児童は、各自のつまづいていた点が、ペア学習や全体場の話合い活動を通して明確になり、さらに自信をもって計算に取り組むようになった。

- (3) 「ラッココース」・・・ 発展問題を解き、考え方を友達に説明できる。



主に正しい筆算や式になるように口に入る数字を考える問題に取り組ませた。減数、被減数、答えの各位のどこに着目すればよいか、ペア学習やグループ学習による学び合いの場を設定することで自分と他者の考えを比べながら聞いたり、説明し合ったりするなどの話合い活動を重視し、数学的な考え方の育成を図った。

児童は、友達との学び合いを通して、数学的な考え方を取り入れながら説明したり、考えたりすることの楽しさに触れながら課題に取り組む姿が見られた。

3 実践の成果と課題

- コース別の習熟度学習を取り入れることで、児童にとっての各々の課題がより明確になり、児童は意欲的に取り組むようになった。そのことが、積極性や自信につながった。
- 教頭と担任のTT指導により、いろいろな場面で児童の一人一人のよさを価値付け、学級で称賛することができた。そのため児童は充実感をもち、それが自己肯定感の高まりにつながっているように思われる。また、児童もお互いのよさを認め合うようになり、より望ましい学習集団になってきている。
- 先生方の少人数教育のよさを生かしたさまざまな取組が、全校体制で組織的に行われているので、先生方のコミュニケーションが密になり、同僚性のある職場になってきている。また、先生と児童のよりよい信頼関係にも寄与している。
- 習熟度別学習の成果が期待できる単元についての洗い出しや、教材研究をさらに進めることで、単元のまとめの段階だけでなく単元全体を通して3学級合同で進める学習の研究も今後進めていきたい。